

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
日本工学院専門学校	昭和51年7月1日	千葉 茂	〒144-8655 東京都大田区西蒲田5-23-22 (電話) 03-3732-1111																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人片柳学園	昭和25年3月1日	千葉 茂	〒144-8650 東京都大田区西蒲田5-23-22 (電話) 03-6424-1111																								
分野	認定課程名	認定学科名	専任士	高度専任士																							
文化・教養	芸術専門課程	音響芸術科	平成21年文部科学大臣 告示号外第22号	-																							
学科の目的	音楽・音響ソフトに関する専門知識、技術を学び、映像・音響ソフト産業のコンテンツ制作で幅広く活躍できるサウンドエンジニアを養成する。																										
認定年月日	平成27年2月17日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	昼間	1710時間	1095時間	0時間	1470時間	0時間	0時間																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
240人	269人	1人	6人	27人	27人																						
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 授業日数の4分の3以上出席し試験を受験する。S:90点以上 A:80～90点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下は不合格 P:単位認定																							
長期休み	■学年始:4月1日～ ■夏季:7月21日～8月31日 ■冬季:12月23日～1月8日 ■学年末:3月17日～3月31日		卒業・進級条件	進級要件 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 学内における担任との個人面談を基本とし、困難な場合は電話やEメール等でも相談対応や指導をしている。また状況に応じて保護者との共有や連携をとった指導を行っている。		課外活動	■課外活動の種類 卒業作品展示会、ボランティア活動、体育祭、学園祭 ■サークル活動: 有																							
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) 音楽・レコーディング・ラジオ・映像編集業界等(フォーレックス、ONETAK E、たずく、エーツー、フリンク、エヌ・ビー・ムジカ等) ■就職指導内容 応募書類添削指導、面接指導、身だしなみ含め就職マナー指導など ■卒業生数 137 人 ■就職希望者数 133 人 ■就職者数 90 人 ■就職率 67.7 % ■卒業生に占める就職者の割合 : 65.7 % ■その他 進学者数5名: 1名(東京工科大学 メディア学部 メディア学科2年次編入) 1名(日本大学 法学部 政治経済学科3年次編入) 1名(日本大学 通信教育部文理学部 哲学専攻3年次編入) 1名(尚美学園大学 芸術情報学部 情報表現学科3年次編入) 1名(相模女子大学 学芸学部 メディア情報学科3年次編入) その他:27名 (令和3年度卒業生に関する 令和4年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ビジネス能力検定3級</td> <td>③</td> <td>125</td> <td>116</td> </tr> <tr> <td>映像音響処理技術者資格認定(JPPA)</td> <td>③</td> <td>62</td> <td>47</td> </tr> <tr> <td>Avid ProTools101</td> <td>③</td> <td>126</td> <td>126</td> </tr> <tr> <td>Avid ProTools110</td> <td>③</td> <td>126</td> <td>126</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するが記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	ビジネス能力検定3級	③	125	116	映像音響処理技術者資格認定(JPPA)	③	62	47	Avid ProTools101	③	126	126	Avid ProTools110	③	126	126
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																								
ビジネス能力検定3級	③	125	116																								
映像音響処理技術者資格認定(JPPA)	③	62	47																								
Avid ProTools101	③	126	126																								
Avid ProTools110	③	126	126																								
中途退学の現状	■中途退学者 8名 令和3年4月1日時点において、在学者 273名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日において、在学者 265名(令和4年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更(就職、進学)、経済的理由、病気治療、成績不良等 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任による面談を重ね、状況により担任の上長面談、保護者への情報共有などを行う。 また、経済面では学費・奨学金相談窓口を設け、学生生活ではカウンセリングルーム等を設けて、個々の学生に適切な指導・助言・相談等を行い、休学者にも復学(転科等)の指導・助言・相談もしている。		中途退学率	2.9 %																							
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 ・片柳学園入学免除制度、若きつくり人奨学金(片柳学園給付型奨学金)、再入学優遇制度、片柳学園貸与型奨学金、留学生特別給付制度、ミュージシャン特待生 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																										

第三者による 学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)</p>
当該学科の ホームページ URL	<p>http://www.neec.ac.jp/department/music/recording/</p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

レコーディング分野に関し、適宜、企業等へのヒアリングを実施し、実務に関する知識、技術を調査して、カリキュラムに反映させる。またレコーディング分野に関し、年度毎に既存のカリキュラムについて総合的に検証する。授業科目のシラバスをもとに、科目担当教員と企業講師との間で意見交換を行い、内容や評価方法を定める。また、学習評価を踏まえ、授業内容及び方法について検証する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、校長を委員長とし、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。
本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。
意思決定に関しては学科教員と学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名及び企業関係者と協議の上、教育学生支援部、副校長、校長と協議の上決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
岸 賢一	一般社団法人 日本ポストプロダクション協会 理事	令和4年4月1日 ～令和5年3月31日(1年)	①
青砥 須比古	株式会社フリーマーケット 代表取締役	令和4年4月1日 ～令和5年3月31日(1年)	③
大野 昌寛	株式会社キング関口台スタジオ 経営企画部長	令和4年4月1日 ～令和5年3月31日(1年)	③
山野 大星	日本工学院専門学校 副校長	令和4年4月1日 ～令和5年3月31日(1年)	
中村 英詞	日本工学院専門学校 ミュージックカレッジ カレッジ長	令和4年4月1日 ～令和5年3月31日(1年)	
我妻 拓	日本工学院専門学校 ミュージックカレッジ 音響芸術科 科長	令和4年4月1日 ～令和5年3月31日(1年)	
古川 敬祐	日本工学院専門学校 ミュージックカレッジ 音響芸術科 主任	令和4年4月1日 ～令和5年3月31日(1年)	
大塚 勝哉	日本工学院専門学校 教育・学生支援部 課長	令和4年4月1日 ～令和5年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年間開催数は2回の予定、開催時期は9月及び3月の予定

(開催日時(実績))

第1回 令和3年 9月28日実施

第2回 令和4年 3月28日実施

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

社会が求める人材も多様化しており、レコーディングや編集技術といった専門分野だけに興味関心をもつのではなく、何事にも興味を持ち多彩な感性を養っていただける教育を求められている。また、人との関わり方、いわゆるコミュニケーション能力の向上もビジネスをしていく上で必要なスキルとなることから、入学時からオリエンテーションではグループワークを多様することで、自分の気持ちを相手に「伝える力」、そして、相手の意見を正しく「聞く力」を身につけられるよう取組み、学生達のコミュニケーション能力の向上に努めている。また、授業においても一方通行型の授業だけではなく、チームで協働するカリキュラムも増やし、社会で活躍ができる人材育成に取り組んでいる。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
レコーディングの実習において実践的な指導を受けるために音楽録音の実績のある企業を選定している。また、指導を受けるにあたっては各分野で必要となる知識、技術、感性を有している講師の派遣などの協力が得られることが可能な企業を選定している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容
※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
学科担当教員と株式会社ミキサーズラボ,株式会社マトリックス間で音響技術や知識について意見を交換し、授業計画、評価方法、学生指導上の問題点、改善案などを計画し実習を行う。企画立案から本番運営までの過程における授業内容・方法等について検証し、学生指導上での問題点、改善案を話し合う。授業の成果物をもとに派遣講師が採点し、学科担当教員とともに成績評価・単位認定を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
実習演習1・2・3	専攻ごとに専門的な実習・演習を行います。	株式会社ミキサーズラボ 株式会社マトリックス
映像音響3	専攻ごとに専門的な授業を行います。	株式会社Narval
卒業制作	専攻で学んだ知識を生かして、実践的な作品制作を行います。	株式会社ミキサーズラボ 株式会社マトリックス

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
「研修規程第1条 教員が専攻分野における授業科目や授業科目以外の担当業務等指導力の修得と向上を目的として、企業等連携研修を行う講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定」における目的に沿い、講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得させる。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2)研修等の実績
①専攻分野における実務に関する研修等
研修名「日本音楽スタジオ協会エンジニア研修会」(連携企業等:日本音楽スタジオ協会)
期間:8月 対象:音響芸術科 教員
内容:これから求められるエンジニアとは。
・エンジニア業務対応への姿勢やコミュニケーションの大切さについて
・自分の音質基準を持つことの重要性

②指導力の修得・向上のための研修等
研修名「進路指導研修」(連携企業等:富士通Japan)
期間:10月31日 対象:音響芸術科 教員
内容:学科をとりまく内外の問題点を整理し、今後どのような学生を育成していくべきかを検討する。
・実施方法及び評価方法について
・教える上での注意点

(3)研修等の計画
①専攻分野における実務に関する研修等
研修名「Dolby Atmos」(連携企業等:日本音楽スタジオ協会)
期間:6月3日 対象:音響芸術科 教員
内容:Dolby Atmosの制作やスタジオデザインについて
・立体音響が与える演出の可能性について理解する
・教える上での注意点

②指導力の修得・向上のための研修等
研修名「教員研修」(連携企業等: 未定)
期間:8月31日を予定 対象:音響芸術科 教員
内容:
・成績評価方法について
・シラバス/コマシラバスについての基本理解

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
桂田 忠明	セントラル電子制御株式会社 最高顧問	令和4年4月1日 ～令和5年3月31日(1年)	IT企業等委員/ 卒業生委員
正木 英治	株式会社マックス 専務取締役	令和4年4月1日 ～令和5年3月31日(1年)	地域関連/ 会計専門委員
平川 進	株式会社テレビ神奈川ecom事業局 ecom事業部	令和4年4月1日 ～令和5年3月31日(1年)	クリエイターズ企業等委員/ 卒業生委員
小澤 賢侍	CG-ARTS協会(公益財団法人 画像情報教育振興協会) 教育事業部教育推進グループセクションチーフ	令和4年4月1日 ～令和5年3月31日(1年)	クリエイターズ/ デザイン企業等委員
西川 恭子	一般社団法人 大田工業連合会 事務局長	令和4年4月1日 ～令和5年3月31日(1年)	テクノロジー企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	令和4年4月1日 ～令和5年3月31日(1年)	ミュージック企業等委員
宮地 裕	学校法人上野塾 東京実業高等学校 進路指導部部長	令和4年4月1日 ～令和5年3月31日(1年)	学校関連

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他() ()

<https://www.neec.ac.jp/public/>

公表時期: 令和4年9月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価
(10) 国際連携の状況	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(11) その他	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他() ()

<https://www.neec.ac.jp/public/>

授業科目等の概要

芸術専門課程 音響芸術科 令和4年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			キャリアプラン ニング1	就職・進路に向けて準備を行います。	1・前	30	2	○			○		○		
2	○			キャリアプラン ニング2		1・後	30	2	○			○		○		
3	○			ビジネストレー ニング1	ビジネス検定の受験とビジネスマナーを学びます。	1・前	30	2	○			○				○
4	○			ビジネストレー ニング2	ビジネス検定合格をめざし、ビジネスマナーを学び ます。	1・後	30	2	○			○				○
5			○	海外研修	学科の特色に基づいたプランで、本場のエンター テインメントを学びます。	1・前 後	30	1			○	○	○			
6			○	ボランティア1	社会貢献、地域貢献といった体験を通じて、社会 に関わる喜びを得ていきます。	1・前 後	30	1			○	○	○			
7			○	資格対策講座 1	学科に関連する資格に対して集中的な対策講座を 開催します。	1・前 後	15	1	○			○				○
8			○	資格対策講座 2		1・前 後	15	1	○			○				
9	○			外国語1	世界の音楽業界で活躍するために外国語の基礎 を学びます。	1・前	30	2	○			○				○
10	○			外国語2		1・後	30	2	○			○				

11	○		音楽基礎1		アーティストと音楽制作を進める為の基礎を学びます。	1・前	30	2	○				○		○			
12	○		音楽基礎2			1・後	30	2	○				○		○			
13	○		ステージシステム1		舞台機構技能検定の内容を元にPAや舞台全般の技術やシステムを学びます。	1・前	30	2	○				○				○	
14	○		ステージシステム2		舞台音響や舞台全般の技術やシステムを学びます。	1・後	30	2	○				○				○	
15	○		サウンド基礎		音という現象と音響関連の用語やその理解を目的とします。	1・前	30	2	○				○				○	
16	○		サウンドシステム1		音響関連の用語やその仕組みの理解を目的とします。	1・後	30	2	○				○				○	
17	○		映像音響1		映像や放送関連の用語を学習します。	1・前	30	2	○				○				○	
18	○		映像音響2		映像や放送関連の機器やソフトについて学習します。	1・後	30	2	○				○				○	
19	○		Pro Tools1		Pro Toolsの機能と操作を学び検定合格を目指します。	1・前	60	2	○				○				○	
20	○		Pro Tools2			1・後	60	2	○				○				○	
21	○		実習・演習1		スタジオシステム全般を学び、音響機器の基本操作を学びます。	1・前	180	6					○	○			○	○
22	○		実習・演習2		スタジオシステムを理解し、作品づくりに向けた基本操作を学びます。	1・後	180	6					○	○			○	○
23		○	ライブステージ鑑賞1		アーティストのステージを観て、周辺を含めたプロの技術を学びます。	1・前後	15	1	○						○	○		

24			○ 特別講義1	特別講師を招いた授業やイベントなどを開催します。	1・前後	15	1	○				○		○		
25		○ 特別講義2	1・前後		15	1	○					○		○		
26		○ 特別講義3	1・前後		15	1	○					○		○		
27		○ 特別講義4	1・前後		15	1	○					○		○		
28			○ マルチメジャー	自分が選択している専攻・コースの枠にとらわれず幅広く学ぶ授業です。	1・前後	15	1	○				○				○
29	○		キャリアプランニング3	求人情報の分析や就職・進路に向けて準備を行います。	2・前	30	2	○				○				○
30			○ キャリアプランニング4	求人情報の分析や社会人への準備を行います。	2・後	30	2	○				○				○
31	○		ビジネススキル1	社会人としてのPC活用法を学びます。	2・前	30	2	○				○				○
32			○ ビジネススキル2		2・後	30	2	○				○				
33			○ ボランティア2	社会貢献、地域貢献といった体験を通じて、社会に関わる喜びを得ていきます。	2・前後	30	1				○		○	○		
34			○ 資格対策講座3	学科に関連する資格に対して集中的な対策講座を開催します。	2・前後	15	1	○				○				○
35			○ 資格対策講座4		2・前後	15	1	○				○				
36	○		音楽基礎3	音楽制作ソフトの基本操作を通して音楽を学びます。	2・前	15	2	○				○				○

37	○		総合業界研究 1	音楽・放送・芸能関係の業界の仕組み、仕事について学びます。	2・前	30	2	○			○		○					
38		○	総合業界研究 2		2・後	30	2	○			○		○					
39	○		サウンドシステム2	音響関連の用語やその仕組みの理解を目的とします。	2・前	30	2	○			○						○	
40		○	サウンドコンテンツ	音響的に優れた作品から音作りの概念や方法を学びます。	2・後	30	2	○			○							○
41	○		映像音響3	映像や画像の編集やアプリケーションについて学習します。	2・前	30	2	○			○							○ ○
42	○		ビジュアルコンテンツ	映像や画像等の作品について学習します。	2・後	30	2	○			○							○
43	○		Pro Tools3	Pro Tools認定上位の機能・操作について学びます。	2・前	60	4				○	○						○
44	○		実習・演習3	専攻別にわかれた実習制作を行います。	2・前	180	6				○	○						○ ○
45		○	卒業制作	2年間の集大成として、専攻別に作品を作ります。	2・後	240	8				○	○						○ ○
46		○	ライブステージ鑑賞2	アーティストのステージを観て、周辺を含めたプロの技術を学びます。	2・前後	15	1	○					○	○				
47		○	特別講義5	特別講師を招いた授業やイベントなどを開催します。	2・前後	15	1	○					○	○				
48		○	特別講義6		2・前後	15	1	○					○	○				
49		○	特別講義7		2・前後	15	1	○					○	○				
50		○	特別講義8		2・前後	15	1	○					○	○				

51			○	インターンシ ップ	内定した企業で行われる長期研修です。	2 ・ 前 後	540	1 8				○		○		○
合計				51科目			2550単位時間(120単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業時に必修科目1350時間(69単位)取得および選択科目を450時間(20単位)以上取得し、合計1800時間(89単位)以上取得すること	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。